

ご当地自慢

長野県伊那市編

3

南信森林管理署

◆天下第一の桜 【高遠城址公園】

明治四年（一八七一年）、廃藩置県となり翌五年、高遠城は取り壊されました。その後城址は公園となりましたが、管理する者もなく荒れるままになっていました。見かねた旧藩士たちが、明治八年に、馬場の桜を城跡に移植したのが、現在の桜の名所「高遠城址公園」の始まりです。

かつて馬の姿が沢山の桜の花に隠れたという高遠藩の桜の馬場。その在りし日の姿を再現するかのようになり、約千五百本の桜が見られ、古くから「天下第一の桜」と称されて全国的に有名で、「さくら名所百選」にも選ばれています。



高遠桜

高遠の桜は、タカトオコヒガンザクラ

で、ソメイヨシノより小ぶりで赤みのあつ花を咲かせ、開花時には公園一帯が淡いピンクに染まり「天下第一の桜」にふさわしい光景です。また、夜のライトアップされた桜の幻想的な美しさも忘れ難いものになります。

伊那市内には「高遠城址公園」のほか「三峰川桜堤防」、「春日公園」、「花の丘公園」、「勝間のしだれ桜」など桜の名所があります。



高遠夜桜

◆信州そば発祥の地 【伊那市】

奈良時代の初め、修験道の開祖「役小角」は荒行の聖地である駒ヶ岳を目指しました。途中、伊那の内の萱で村人たちに温かくもてなされた役小角は、お礼として厳しい気候条件でも栽培でき、栄養価の高い「そばの実」を村人たちに贈りました。村人たちは、このそばを大切に育て、やがて信州全体に広がり、以来、内の萱は信州そば発祥の地といわれ、今でも毎年十月には「行者そば祭り」が盛大に開催されます。行者そばは、地粉で打った手打ちそばを、大根おろしの汁に焼き味噌を溶き入れた「辛つゆ」で食べるものをいいます。

役小角の時代から九百年の時を経た江戸時代の初め、高遠藩主の保科正之は辛味大根と焼き味噌で食べる蕎麦切りを高遠藩のおもてなし料理とし、将軍にも献上していました。殿様も庶民も愛でた「高遠そば」は、後に会津藩の「藩祖」となった保科正之によって、福島県各地に「高遠蕎麦」として伝えられ、日本の名蕎麦に数えられています。

高遠城址で十一月に開催される秋祭りでは、復活した辛味大根とともに新そばが味わえます。また、市内に点在するそば処では、いつでも地粉で打ったそばを味わうことができます。



高遠そば

◆癒しのパワースポット【ゼロ磁場 分杭峠（ぶんどぐいとうげ）】

日本最大の断層「中央構造線」が縦貫する分杭峠は、ゼロ磁場としても近年有名となり多くの観光客が訪れています。ゼロ磁場とは、中国の気功師、張志祥氏により発見された場所です。「人が幸せになれる場所」ともいわれ、心身の癒しを求め訪れる方が多く、ガン、腰痛、膝痛、肩こり、頭痛や生活習慣病などの治癒効果（個人の意見として）があると評判となっています。



分杭峠

所在地

（高遠城址公園）長野県伊那市高遠町

（分杭峠）長野県伊那市長谷

アクセス

（高遠城址公園）

〔公共交通機関〕

JR 飯田線伊那市駅下車、バス高遠

駅 約二五分、徒歩約一五分

〔自家用車〕

中央自動車道伊那ICより約三十分

（分杭峠）

〔公共交通機関〕

JR 飯田線伊那市駅下車、バス高遠

駅 約二五分、シャトルバス約十五

分

〔自家用車〕

中央自動車道伊那ICより

約四十分、シャトルバス約十五分

写真提供：伊那市観光協会